



2021年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2021年2月10日

上場会社名 ソースネクスト株式会社
 コード番号 4344 URL <http://www.sourcenext.com>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 兼 COO (氏名) 小嶋 智彰
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役常務執行役員 兼 CFO (氏名) 青山 文彦
 四半期報告書提出予定日 2021年2月10日
 配当支払開始予定日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東
 TEL 03-6254-5231

(百万円未満切捨て)

1. 2021年3月期第3四半期の連結業績(2020年4月1日～2020年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第3四半期	9,514	27.3	446	3.9	369	27.2	196	25.7
2020年3月期第3四半期	13,089	27.8	464	45.1	507	41.5	264	57.6

(注) 包括利益 2021年3月期第3四半期 163百万円 (39.1%) 2020年3月期第3四半期 267百万円 (56.7%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第3四半期	1.44	1.44
2020年3月期第3四半期	1.94	1.93

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2021年3月期第3四半期	20,460	12,248	59.2	88.84
2020年3月期	17,029	12,091	70.3	87.88

(参考) 自己資本 2021年3月期第3四半期 12,105百万円 2020年3月期 11,973百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期		0.00		0.25	0.25
2021年3月期		0.00			
2021年3月期(予想)				0.46	0.46

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2021年3月期の連結業績予想(2020年4月1日～2021年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	13,000	24.8	600	26.4	600	11.6	416	85.1	3.06

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2021年3月期3Q	136,252,800 株	2020年3月期	136,241,200 株
期末自己株式数	2021年3月期3Q	24 株	2020年3月期	24 株
期中平均株式数(四半期累計)	2021年3月期3Q	136,244,033 株	2020年3月期3Q	136,171,496 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、(添付資料)「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、一時的に持ち直しが動いた経済活動も再び低迷するなど、先行きが見通せない極めて厳しい事業環境となりました。足許の個人消費は、新型コロナウイルスの感染再拡大を背景に弱含みとなっており、長期的に低迷する見通しとなっております。当社グループを取り巻く環境におきましては、当第3四半期連結累計期間のパソコン出荷台数は前年比113.0%と好調に推移しました(2021年1月、JEITA調べ)。

こうした状況の中、当社グループは、IoT製品やスマートフォン向けアプリ及びパソコンソフトの新規ユーザーの獲得と、マーケットの拡大に取り組んで参りました。

IOT製品は、12月に自社開発の新作2製品「タブレット mimi (ミミ)」「AutoMemo (オートメモ)」を発売しました。

「タブレット mimi」は話した言葉をスピーディに文字にする、AIボイス筆談機です。加齢性難聴の方や聴覚障がいのある方とのコミュニケーションをスムーズで快適なものにするために開発しました。卓上に置いても見やすいように8インチのディスプレイを搭載し、大きい画面と大きな文字で、快適な筆談ができる製品です。

「AutoMemo」は、録音した音声ファイルを自動でテキスト化できるボイスレコーダーです。録音ファイルはWi-Fiで自動的にクラウドへ転送されて専用アプリで文字と音声を確認できるので、会議メモや議事録、取材記事の作成などに役立ちます。(注:テキスト化できる量は料金プランによって異なります。)

その他、当社が業務・資本提携している米国Molekule社の空気清浄機「Molekule (モレキュル) Air Mini+」を発売しました。本製品はPECO(光電気化学酸化)フィルターにより、空気中の物質を分子レベルで分解できる空気清浄機です。一回フィルターを通過させるだけで、通過した空気に含まれるウイルスを99%以上除去するテスト結果も発表しております。インテリアとしても違和感のないエレガントなデザインで、360度の吸気口により場所を選ばずに設置できます。アプリによる遠隔での操作が可能で、フィルターの交換状況や空気のクリーンレベルを視覚的に把握できます。

また、内閣のテレワーク推進の背景を受けて、当社ではテレワーク関連のソフトウェア・サービス、ハードウェアをスピーディに提供していく方針を打ち出しております。中でも360°カメラとエコーキャンセリングマイク、スピーカーを搭載した会議室用webカメラ「Meeting Owl (ミーティングオウル)」は、2021年2月9日時点で累計出荷台数9,000台を突破する人気商品となりました。オフィスに出社する社員とテレワークの社員が混在する環境や取引先との打ち合わせ等で効率の良いオンライン会議を提供できる製品です。

AI通訳機「POCKETALK (ポケットーク)」は、新型コロナウイルスの感染拡大抑制に伴い店頭販売や海外旅行者向けの需要が減少したものの、第3四半期では発音練習や翻訳方向の補正など、より便利で使いやすい製品への追加機能改善に注力しました。

また、上期に続いて語学学習としての活用方法のPRや、在日外国人への対応が増加している公共機関・医療機関、外国人労働者を採用する製造業・工場等への展開を堅実に進めて参りました。

パソコンソフトでは、年末の年賀状シーズン到来に先駆けて、当社の主力製品である年賀状ソフト3ブランド「筆王」「筆まめ」「宛名職人」の拡販を推し進めました。

既存製品では、在宅ワークやオンライン学習など、自宅パソコンを利用する方が増えたこともあり、セキュリティ対策ソフト「ZEROスーパーセキュリティ」やPDF作成ソフト「いきなりPDF」、ウェブ会議システム「Zoom」とも連携できるオンラインストレージサービス「Dropbox」などが売上に寄与しました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は、95億14百万円(前期比27.3%減)、売上総利益は57億63百万円(前期比28.3%減)となりました。

販売費及び一般管理費につきましては、売上の落ち込みによる影響を回避すべく、「POCKETALK」に関する広告宣伝費を前期に比べて大幅に抑制しました。その他店頭販売は来客数の減少等を踏まえて販促物等の展開を抑制させることで販売促進費も減少しました。

これにより、販売費及び一般管理費は、53億17百万円(前期比29.8%減)と大幅に削減し、当第3四半期連結累計期間の営業利益は4億46百万円(前期比3.9%減)、経常利益は3億69百万円(27.2%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は、1億96百万円(前期比25.7%減)となりました。

当社グループはIoT製品、ソフトウェアの企画・開発・販売及びその他のサービス事業の単一セグメントであります。各販売チャネルの営業概況は以下の通りです。

なお、第1四半期連結累計期間より、販売チャネルの区分を変更しております。従来「その他」に区分しておりました法人営業を「スマートフォン通信事業者(キャリア)」に追加し、名称を「法人営業」に変更しております。このため、前年同期との比較については、変更後の数値に組み替えて比較を行なっています。

ア) 自社オンラインショップ

当チャンネルでは、当社のウェブサイトと併設されたオンラインショップで、「POCKETALK」などのIoT製品やソフトウェアを販売しております。

新作の「タブレット mimi」は、11月の製品発表と同時に予約受付を開始しました。姉妹品の「POCKETALK mimi」とあわせて「mimiシリーズ」としての追加購入サービスや、まずは試してみたいというお客様のために、本製品のレンタルサービスも開始し、より多くの方に製品を知っていただけるような展開を推進しました。

「AutoMemo」も同様に、11月の製品発表と同時に予約受付を開始しました。オンラインショップユーザー向けのメールマガジン配信で本製品を紹介したところ非常に評判も良く、売上拡大に繋げることができました。

「POCKETALK」は、前年に比べて減少した需要をカバーするべく、製品ラインナップにあわせて様々な施策を実施しました。製品のページはコンテンツを整理し、最新のアップデート情報などがわかりやすいようにリニューアルしました。また、初代「POCKETALK」からW、S、SPlusへの乗換サービスも開始しました。

その他パソコンソフトでは年賀状ソフトの販売を推進しました。来年以降も同じ製品を常に最新の状態でお使いいただけるよう「自動アップグレードサービス」の案内を強化したり、製品ごとのラインナップを分かりやすく表示する工夫をしたりすることで、売上を大きく伸ばしました。

この結果、売上高は、42億53百万円（前期比2.5%増）となりました。

イ) 家電量販店

当チャンネルでは、主に全国の家電量販店において、個人ユーザー向けのIoT製品及びパソコンソフト等の販売を行っております。

IoT製品では、「POCKETALK」は前期に比べて需要が減少したものの、新作の「タブレット mimi」は全国の家電量販店に加えて眼鏡販売店の「メガネの愛眼」でも販売を開始し、新規の販路開拓を推し進めました。

「AutoMemo」は量販店での展開時に気軽にお試しいただけるようデモ機やスマホでの設定マニュアルを用意しました。

その他「Meeting Owl」のプロモーション強化に伴い、テレワーク関連製品の販売強化を実施しました。

「Meeting Owl」は店頭展開に加えて大学生協への販路も拡大し、売上に繋がりました。

パソコンソフトでは、年賀状シーズンに向けたハガキ作成ソフトの3ブランド「筆王」「筆まめ」「宛名職人」を拡販しました。新型コロナウイルス感染拡大の抑制に加えて昨年あった令和への元号改正が今年は発生しなかったことから店頭展開は多少苦戦したものの、シーズン期間中の売場確保や店頭展開の拡大に努めました。

その他、既存製品ではテレワークやオンライン学習の需要が増加したことで、「ZEROウイルスセキュリティ」「ZEROスーパーセキュリティ」などのセキュリティソフトや、タイピングソフトの「特打」シリーズの売上も増加しましたが、昨年の「POCKETALK」やパソコンソフトの消費税増税前の駆け込み需要による売上を超えるには至らず、この結果、売上高は30億85百万円（前期比53.4%減）となりました。

ウ) 法人営業

当チャンネルでは、法人向け「POCKETALK」を始めとするIoT製品並びにテレワーク関連のハードウェアの販売・レンタル提供や、パソコンソフト・スマートフォンアプリの使い放題サービス等の提供を行っております。

IoT製品では、「POCKETALK」の観光施設や店舗のインバウンド対応での需要が減少したものの、自治体や保育園、工場などの在日外国人対応が堅調であり、更にはSIM通信の2年間契約終了に伴う更新需要が出てきております。更には「POCKETALK mimi」が介護施設や特例子会社を中心に実績を伸ばしました。

テレワーク関連では「Meeting Owl」の収益が拡大しました。TVCMやオンラインセミナー、企業導入事例の紹介などのPR効果により、製造業や金融、大学、各種団体など様々な企業からの問い合わせ注文が急増しました。本製品の認知度向上につれ各都市間での会議を目的とした複数台での利用も増加し、出荷台数も好調に推移しました。

大手キャリアへの定額アプリ使い放題サービスへのコンテンツ提供及び販売につきましては、「超ブルーライト削減」などの広告施策が好影響となり、売上の拡大に繋がりました。

既存製品では、格安スマホやSIM関連事業者向けに提供した、留守番電話が読めるアプリ「スマート留守電」や「アプリ超ホーダイ」などの月額利用が堅調に推移しました。その他、パソコンソフトの法人ライセンス等につきましては、テレワークによりセキュリティソフトの需要が増加したものの、前期にあったMicrosoft社の「Windows 7」サポート期限終了予定に伴うパソコンの入替需要が今年は無かったため、全体的に減少する運びとなりました。

この結果、売上高は19億98百万円(前期比5.5%減)となりました。

エ) その他

その他、海外では米国や欧州のAmazonを中心に「POCKETALK」の販売を拡大しております。2020年は新型コロナウイルスの世界的な流行によって拡販も縮小しておりましたが、米国のSourcnext Inc.を通じて「POCKETALK」を医療機関へ850台寄付したことが評価され、Newsweek誌「パンデミックにおけるGood company 50社」に選出されました。また、第3四半期は感謝祭やクリスマスといったホリデーシーズンに突入し、Amazonのネットショッピングでの個人消費が少しずつ回復を見せて参りました。

その他の地域では主にアジア・タイでのプロモーション活動が進みました。マレーシアでもPOP UPストアでの展開が開始し、駐在邦人を中心に販売が進みました。

この結果、売上高は1億77百万円（前期比15.5%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末と比較し34億31百万円増加し、204億60百万円となりました。主な要因は、投資有価証券の増加15億55百万円、商品及び製品の増加11億9百万円、現金及び預金の増加6億74百万円によるものです。

負債は、前連結会計年度末と比較し32億74百万円増加し、82億12百万円となりました。主な要因は「POCKETALK」や「Meeting Owl」などのIoT製品の仕入に伴って調達した短期借入金の増加30億円並びに長期借入金の増加8億83百万円によるものです。

純資産は、前連結会計年度末と比較し1億56百万円増加し、122億48百万円となりました。経営の安定性を示す自己資本比率は当第3四半期連結会計期間末において59.2%（前連結会計年度比11.1ポイント減）となり、財務の安全性が堅持されております。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2021年3月期の通期連結業績予想につきましては、2020年5月13日に公表しました通期の売上業績予想を修正しております。なお、各利益につきましては、期初予想より変更はございませんが、詳細につきましては本日公表の「業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,898,678	4,572,974
売掛金	2,362,790	2,400,215
商品及び製品	3,092,616	4,201,673
原材料及び貯蔵品	123,189	137,673
前渡金	1,556,730	1,168,677
未収還付法人税等	—	307,660
その他	484,374	816,230
流動資産合計	11,518,380	13,605,106
固定資産		
有形固定資産		
有形固定資産	437,227	434,913
減価償却累計額	△280,105	△317,547
有形固定資産合計	157,121	117,365
無形固定資産		
ソフトウェア	1,146,007	1,323,022
のれん	293,700	188,972
契約関連無形資産	1,311,100	1,252,973
その他	176,514	139,951
無形固定資産合計	2,927,322	2,904,919
投資その他の資産		
投資有価証券	1,382,432	2,937,811
繰延税金資産	860,035	691,989
その他	184,428	203,691
投資その他の資産合計	2,426,896	3,833,492
固定資産合計	5,511,341	6,855,778
資産合計	17,029,721	20,460,885
負債の部		
流動負債		
買掛金	420,982	550,755
短期借入金	—	3,000,000
1年内返済予定の長期借入金	422,000	722,000
未払金	739,018	1,042,712
未払法人税等	377,248	2,293
賞与引当金	24,472	20,073
返品調整引当金	314,416	140,635
前受収益	1,159,398	692,800
アフターサービス引当金	18,799	7,773
ポイント引当金	165,004	198,062
その他	344,187	255,033
流動負債合計	3,985,529	6,632,140
固定負債		
長期借入金	593,000	1,476,500
長期前受収益	359,403	103,981
固定負債合計	952,403	1,580,481
負債合計	4,937,933	8,212,622

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,688,593	3,690,038
資本剰余金	4,268,620	4,270,065
利益剰余金	4,034,956	4,197,491
自己株式	△3	△3
株主資本合計	11,992,168	12,157,592
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△4,329	△38,383
為替換算調整勘定	△14,789	△14,204
その他の包括利益累計額合計	△19,118	△52,587
新株予約権	118,739	143,258
純資産合計	12,091,788	12,248,263
負債純資産合計	17,029,721	20,460,885

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
売上高	13,089,232	9,514,631
売上原価	5,048,223	3,924,794
売上総利益	8,041,009	5,589,837
返品調整引当金繰入額	127,083	140,635
返品調整引当金戻入額	120,858	314,416
差引売上総利益	8,034,784	5,763,618
販売費及び一般管理費	7,570,581	5,317,567
営業利益	464,203	446,050
営業外収益		
受取利息	240	17,526
受取配当金	277	740
持分法による投資利益	46,310	—
その他	1,756	2,147
営業外収益合計	48,584	20,415
営業外費用		
支払利息	2,952	7,301
為替差損	1,746	54,707
持分法による投資損失	—	34,835
その他	227	96
営業外費用合計	4,925	96,939
経常利益	507,862	369,526
特別利益		
新株予約権戻入益	—	398
関係会社株式売却益	28,273	—
特別利益合計	28,273	398
税金等調整前四半期純利益	536,135	369,924
法人税、住民税及び事業税	454,693	△9,745
法人税等調整額	△183,028	183,075
法人税等合計	271,664	173,329
四半期純利益	264,471	196,594
親会社株主に帰属する四半期純利益	264,471	196,594

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
四半期純利益	264,471	196,594
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△807	△34,053
為替換算調整勘定	4,034	585
その他の包括利益合計	3,226	△33,468
四半期包括利益	267,697	163,126
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	267,697	163,126
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。